

D-1 成果

(1)児童の興味・関心を把握し、それに応じた体験活動を設けることができた。

今まで馴染みのなかったカクレマノミやかわはぎなどの名前を、魚の製作やゲームを通して、3人とも自然に覚え、自分に割り当てられた魚の数分製作することができた。その自作の魚を使って、大きさ比べをしたり、お金に換えたりするという算数的な活動も楽しみながら行うことができた。

(2)児童一人一人の思いや願いを生かした体験活動を取り入れたことにより、集中して活動に取り組めた。

一つ一つの学習活動において、それぞれの課題を組み込み、その課題設定に合わせた教材や教具を準備したことで、豊かな活動が保障され、どの子も集中して活動することができた。

(3)児童自身が自分の活動を自覚し、行動できていた。

一人一人の実態に合わせた課題や学習活動をいかに盛り込むかを考えた授業づくりをすることで、児童が自分の本時の活動を自覚できるようになり、それが、意欲的に学習に取り組むことにつながった。

(4)特性(強いところ)をうまく活かす支援を考えることが大切。

一人一人の特性を理解し、それぞれの課題に向かうために必要な手だてや配慮を講じることで、ニーズに応じた指導が可能となることを実感できた。

